



例会:毎週水曜日 12:45~ 例会場:勇屋会館 事務所:安曇野市豊科 4312-6 奥村ビル2F

R.I 会長メッセージ

TEL:0263(73)2901

FAX:0263(72)3181

E-mail : azumirc@poppy.ocn.ne.jp

持続可能な インパクトを 生み出そう

会 長 二木 正之

幹 事 丸山 慶四郎

R.I 会長 オラインカ・ハキーム・ババロラ (トランス・アマディ RC)

ガバナー 橋上 信久 (飯田南 RC)

中信第一グループガバナー補佐 竹内 直彦 (大町 RC)



ガバナー補佐事前訪問

★配布・幹事報告No.4・Rの友8月号

- ・第2回理事会報告・確定申告用寄付金領収証
- ・2025-26年度クラブ報告書

★回覧・会報 No.1753, No.1754・8月,9月出席確認表

★ゲスト・中信第一グループガバナー補佐 竹内直彦 様

- ・ // 補佐幹事 金枝真佐尋 様
- ・米山奨学生 ブーティーユアンさん

★ 会長挨拶

【二木正之会長】

皆さん、こんにちは。

本日は、国際ロータリー第2600地区中信第一グループ、ガバナー補佐の竹内直彦様をお迎えしての例会です。

竹内ガバナー補佐におかれましては、ご多用の中、あづみ野ロータリークラブへお越しいただき、誠にありがとうございます。

会員一同、心より歓迎申し上げます。

今年は、全国各地で40度を超える日が相次ぐなど、これまでにない厳しい暑さが続いております。皆様におかれましては、水分補給や休憩を心がけ、体調には十分お気をつけいただきたいと思います。

さて、明日8月6日は、広島の「原爆の日」です。

私はこれまで二度、8月6日に広島を訪れ、平和記念公園で黙祷を捧げたことがあります。

じりじりと照りつける真夏の暑さの中、大勢の人が静かにその時を待っていました。

そして、午前8時15分。

黙祷が始まると、蟬の音が聞こえる中に、平和の鐘の音がゆっくりと響きました。

その鐘の音が、私には大変印象深く、今でも心に残っています。

鐘の音を聞きながら、今、私たちがこうして平穏な毎日をごしていることは、決して当たり前ではないのだと、改めて感

じました。

戦争を直接体験された方々が少なくなる中、その記憶をどのように次の世代へ伝えていくのか。

そして、平和の尊さを、言葉だけではなく、行動としてどのように受け継いでいくのか。

これは、私たち一人ひとりに問われていることだと思います。世界に目を向ければ、今なお争いや対立が続いています。

平和は、ただ願っているだけで守られるものではありません。

人と人との出会い、相手の話を聞き、互いの違いを認めながら、信頼関係を築いていく。

そうした小さな積み重ねが、平和につながっていくのではないのでしょうか。

ロータリーは、職業や立場、国や地域の違いを越えて、人と人との友情と信頼を育ててきた団体です。

そして、そのロータリーの精神を若い世代へつないでいく大切な活動の一つが、RYLA であると思います。

次年度、あづみ野ロータリークラブは、RYLA の主幹クラブを務めます。

RYLA は、若い人たちが仲間と出会い、互いの考え方に触れながら、リーダーシップや協力することの大切さを学ぶ貴重な機会です。

一人の若者がそこで何かを感じ、考え、行動を始める。

その小さな一歩が、やがて地域や社会をより良くする力になっていくのだと思います。

しかし、RYLA は、主幹クラブだけの力で成功させられるものではありません。

当クラブにおいても、一部の委員会だけで行うのではなく、クラブ全員の力を合わせて取り組まなければなりません。

そして、地区内各クラブからの参加者の推薦をはじめ、講師、運営、情報発信など、地区の皆様のお力添えも欠かせません。

竹内ガバナー補佐におかれましては、ぜひ中信第一グループをはじめ、地区の皆様にもRYLAの意義をお伝えいただき、

参加と協力を呼びかけていただければ、大変ありがたく思います。

地区の皆様から、

「あづみ野ロータリークラブが主幹で本当に良かった」

と言っただけのような RYLA を、皆様と力を合わせて創り上げてまいりたいと思います。

本日のガバナー補佐訪問が、当クラブの現状を見つめ直し、これからの活動をさらに充実させる機会となることを願っております。

竹内ガバナー補佐、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

以上、会長挨拶とさせていただきます。

《会長幹事懇談会》



★ 幹事報告

【丸山慶四郎幹事】

別紙参照



◇出席報告

会員総数 17 名 出席免除会員数 1 名	
本日の出席率	前々回(7月22日修正出席率)
出席者: 9 名	欠席者: 4 名
欠席者: 7 名	メ・キャップ: 1 名
出席率: 56%	出席率: 82%



【二木正之の会長よりユアンさんに奨学金贈呈】

★ ニコニコ BOX 報告 (敬称略・順不同)

金枝真佐尋(AG 幹事): 補佐訪問について参りました
よろしくお願ひします。

二木: 竹内直彦ガバナー補佐よろしくお願ひいたします。

丸山(慶): 中信第一グループガバナー補佐竹内直彦様、
補佐幹事金枝真佐尋様をお迎えして。宜しくお願ひ致します。

赤羽: 竹内ガバナー補佐、金枝補佐幹事をお迎えして

小穴: 竹内ガバナー補佐様、金枝ガバナー補佐幹事様
ようこそ安曇野へ よろしく御指導下さいませ

笠原: 多くのゲストをお迎えして

下里: ゲストの皆様をお迎えして

中村: 竹内ガバナー補佐、金枝補佐幹事をお迎えして。

場々: 竹内ガバナー補佐をお迎えして

藤森: 本日は竹内ガバナー補佐、金枝ガバナー補佐幹事
のご指導よろしくお願ひします。

〔計 10 件 34,000 円〕

今年度のニコニコ BOX 計 149,000 円

【 下里守クラブ奉副委員 】



【小穴実 SAA 委員長・笠原明仁プログラム委員長】



★本日のプログラム

ガバナー補佐事前訪問

・RI 第 2600 地区 中信第一グループ
ガバナー補佐 竹内直彦様(大町ロータリークラブ)



2026-2027 RI 会長プロフィール オンラインカ・ハキーム・パバラ

1988 年に大学で工学の学位を取得。シェル PLC で要職を歴任するなど、石油・ガス業界で 25 年間勤務し、4 大陸でプロジェクトを実施。リベリア・テクニカル・サービス社（石油・ガスインフラ供給会社）とリード・アンド・チェンジ・コンサルティング社（管理職コーチングと組織変革アドバイザリー）の 2 社を設立。

パバラ氏が所属する専門職団体には、ナイジェリア技術者協会、ナイジェリア安全専門家協会、変革管理専門家協会などがある。経済・社会政策について政府に意見を提言する、故郷イバダンの組織「ジェリコ・ビジネスメン・クラブ」のメンバーとなっている。ロータリーアクターとして 10 年時活動し、1994 年からはトランス・アマティ・ロータリークラブの会員。

2011-12 年度に地区ガバナー、2013-20 年度に RI 理事、2019-20 年度に副会長を務めた。2017-23 年度に End Polio Now: 歴史をつくるカウントダウンキャンペーン委員会（2017-20 年副委員長）、2013 年～現在はナイジェリア・ポリオプラス委員会（2016 年～現在アドバイザー）での役職を歴任。妻がパバリと共にポート・ハーコート市に在住。冠名基金とアーチ・クラブ・ソサエティを通じてロータリー財団を支援。シェラポート・ボックス UK の評議員としてボランティア活動も行っている。ポリオのない世界のための地域奉仕、RI 起稿の奉仕、ロータリー財団功労表彰状を受賞。

2026-27 年度 RI 第 2600 地区ガバナー

橋上 信久 (妻) 月子

生年月日 1958 年 1 月 28 日
所属クラブ 飯田南ロータリークラブ
職業分類 老人福祉事業
勤務先 医療法人 健生会
役職 理事長
所在地 〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場 124-1
電話 0265 (43) 4848
FAX 0265 (43) 4747
Mobile 090-3063-2999
E-mail n.hashigami@alten-heim.com
自宅 飯田市駒中平



1981 玉川学園 出身
1981 橋上病院
1994 医療法人 健生会 常務理事
2008 アルデンハイム会地の郷 施設長
2019 医療法人 健生会 理事長

ロータリー歴

入会年月日 2001 年 1 月 5 日
2004-2006 米山カウンセラー
2008-2010 地区青少年交換委員
2016-2017 クラブ幹事
2020-2021 クラブ創立 55 周年会長
2024-2025 下伊那グループガバナー補佐
ロータリー財団マルチプルフェロー・米山功労者

趣味
車・ドライブ・歴史・旅行・グルメ
ゴルフ・歌舞伎観劇・スポーツ観戦
美術博物館めぐり
阪神タイガース

メッセージの背景と目的

ロータリーの活動が「成果」だけでなく「持続可能なインパクト」を生み出すことの重要性を強調している。世界・地域社会、そして自分自身の内面における変化を同時に実現することが、今後のロータリーの成長と信頼につながるという明確なビジョンが示された。

ロータリーがもたらす「内なる変化」

会長は、ロータリーが社会を変えるだけでなく、会員一人ひとりの人生、キャリア、家族、価値観を変えてきた点に注目するよう呼びかけた。特に、困難な時期におけるロータリーの「居場所」としての役割が、会員の心を支え、人生に希望を与えていることが、具体的な体験談を通して語られた。

持続可能なインパクトの具体例

教育分野では、南アフリカ・ナズナにおける幼児教育プロジェクトが紹介され、地域と協働することで長期的な成果を生み出した好事例として示された。また、ナイジェリアでの保健プロジェクトでは、妊産婦・乳児死亡率の大幅な低下という成果に加え、世代を超えて命を守り続ける「インパクト」が強調された。

会員増強と包摂の重要性

2030 年までにロータリアン 125 万人、ロータリーアクター 125 万人という目標達成には、すべてのクラブと地区における「迎え入れる姿勢」が不可欠であると述べられた。年齢、背景、考え方の違いを尊重し、多様性を受け入れることが、ロータリーの未来を切り拓く鍵である。

従来のインパクトへ

従来の数値的成果（会員数、募金額、事業規模）を重視しつつも、過去の自分たちを超えることを目標に掲げ、「グッドからベター、そしてベストへ」という成長の姿勢を持ち続ける必要性が示された。変化は出発点であり、真に価値あるものは永続するインパクトである。

四つのテストと中核的価値観

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

中核的価値観

今日の世界は、1905 年の世界とは全く違います。変化のスピードが加速し、人口動態が変わり、テクノロジーによりつながりや幸の新たな機会が生み出されています。不变なのは、ロータリーを定義づける以下の価値観に対するニーズです。

親睦
高潔性
多様性
奉仕
リーダーシップ

過去を敬み、未来を見据えながら、私たちは進化を遂げ、不易流行（根本的な本質を守りつつ時代の変化に合わせて新たな要素を取り入れる）の精神をもってロータリーを時代に即した組織とすることで、繁栄させることができます。

国際ロータリーのビジョン声明

「私たちロータリアン（含むロータリーアクター）は、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」

国際ロータリー第 2600 地区ビジョン

RI 第 2600 地区は、クラブがロータリーとロータリーアクト（以下「ロータリー」）の理念、目的を理解し、ロータリーのルールを守った上で、時代に沿って、それぞれ個性あるビジョンを持ち、多様性と活気にあふれ、地域社会、グローバル社会に良い変化をもたらす活動ができるよう支援する。

地区ビジョン

私たちロータリアン（ロータリーアクター）は

“ 持続可能な良い変化を生むために、
多様性を重んじ、
あらゆる側面で公平さを促進し、
異なる考えや価値観を持つ人々による
貢献を大切に、DEI を実現します。 ”

地区ビジョン

私たちロータリアン（ロータリーアクター）は

“ RI 会長メッセージを理解し、
地域の特性にあった活動を通じて
それぞれが
「魅力ある元気ある個性ある」
クラブになる事を目指します。 ”

地区ビジョン

私たちロータリアン（ロータリーアクター）は

“ ロータリーの原点である
親睦と奉仕を根幹とし、
世界および地域社会で
良い変化を生みだします。 ”

地区ビジョン

私たちロータリアン（ロータリーアクター）は

“ 世界の未来を担う
青少年の活動を支援し、
若きリーダーの育成に努めます。 ”

国際ロータリー第2600地区活動指針

・クラブが、職業分類、男女比、年代などを考慮して、活力と多様性のある会員構成を維持し参加者の基盤を広げ、強化することを支援します。

・クラブが、公共イメージを向上維持するために、地域社会やグローバル社会に良い変化をもたらすべく「5つの中核的価値観」（注1）を行動の指針とすることを奨励します。

・クラブが「ロータリー地域社会共同体等との協力を含め、地域社会やグローバル社会のニーズに合った奉仕活動を行うことを奨励しより多くの参加者の積極的な関りを促します。

(注1)

1. 親睦(Fellowship)

会員同士の友情と信頼関係を大切にし、協力を通じてより良い社会を目指します。

2. 高潔性(Integrity)

倫理観と誠実さを重んじ、私生活・職業・社会奉仕の全てにおいて正しい行動をとります。

3. 多様性(Diversity)

職業・文化・年齢・性別・考え方などの違いを尊重し、多様な視点を受け入れます。

4. 奉仕(Service)

「超我の奉仕(Service Above Self)」の精神のもと、地域社会や世界に貢献します。

5. リーダーシップ(Leadership)

個人と組織のリーダーシップを育み、社会に前向きな変化をもたらします。

国際ロータリー2600地区 戦略計画

行動計画 四つの優先事項

壱：より大きなインパクトをもたらす

弐：参加者の基盤を広げる

参：参加者の積極的なかかわりを促す

肆：適応力を高める



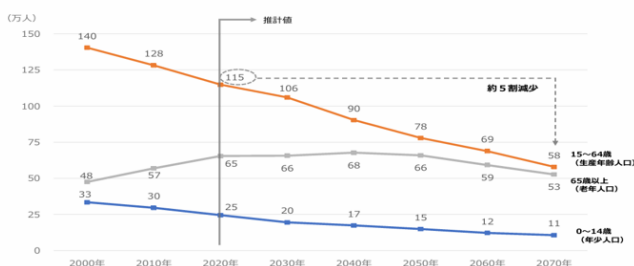
- ・ボリオを根絶し、残された遺産を活用する
- ・ロータリーのプログラムおよびロータリーが提供する体験に焦点を当てる
- ・活動成果を挙げ、それを測る能力を高める
- ・会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様化する
- ・ロータリー参加の新しい道筋を創り出す
- ・ロータリーの開放性とアピール力を高める
- ・インパクトとブランドに対する認知を築く
- ・クラブが会員の積極的な参加を促せるよう支援する
- ・価値を提供するため、参加者中心のアプローチを開発する
- ・個人的／職業的なつながりを築く新たな機会を提供する
- ・リーダーシップ育成およびスキル研修の機会を提供する
- ・研究と革新、およびリスクをいとわない文化を築く
- ・ガバナンス、構造、プロセスを合理化する
- ・意思決定におけるより多様な視点を助長するために、ガバナンスを見直す

COMEBACK TO SHINSHU

次世代に向けて魅力ある「ふるさと信州」の環境づくりを新たな発想で、考え行動しよう！

将来人口推計（長野県：現状推移ケース）

・現状傾向が続くと仮定した場合、15～64歳（生産年齢人口）、0～14歳（年少人口）は一貫して減少
・特に生産年齢人口の減少が大きく、2070年までに約5割減少する見込み



出典：2020年までは国勢調査（総務省）
2025年以降は企業調査部推計（しあわせ信州創造プラン3.0）

「若い人材が帰って来ない、出て行く」

- ▶ 県内高校卒業者の県内就職率は9割を維持しているが、大学進学者のうち約8割が県外へ進学し、県内企業へのリターン就職率は4割弱。また、県内大学 卒業生の県内就職率は約5割と、進学や就職を望むに人口が県外に多く流出している。
- ▶ 県全体で若年人口の減少が続いており、特に進学や就職を機に多くの若者が県外に流出し、戻ってきていない状況にあります。また、社会増減を男女・年代別にみると、進学・就職期である15～19歳と20～24歳で大幅な転出超過となっており、特に女性の転出超過が最も深刻となっています。

図表3-1 地元就職を希望しない理由

1位	志望する企業がない	47.7%
2位	都会の方が福利厚から	43.2%
3位	通勤に時間がかかりすぎる	31.8%
4位	給料が安いから	29.5%
5位	大手企業がないから	25.0%
6位	地域ごとには住みたくない	13.0%

図表3-2 実現すれば地元就職するかもしれないもの

1位	働きたいと思うような企業が多くできる	50.0%
2位	給料が良い企業が多くできる	43.2%
3位	地元の企業が活性化される	41.5%
4位	地元までの交通手段が大幅に改善される	29.5%
5位	志望する職種につけるようになる	23.9%
6位	志望する企業の支社や研究所が設けられる	21.7%

出典：2020年卒 マイナビ大学生リターン・地元就職に関する調査・長野県出身学生回答（マイナビ）

2026-27年度RI第2600地区運営方針

- ▶ 今年度のRI会長メッセージは「UNITE FOR GOOD」。次年度は「CREATE LASTING IMPACT」。表現は違っても、これは別々のメッセージではないと思います。むしろ「同じ方向を向いた連続したメッセージ」と捉えるべきだと思います。UNITE（団結）は目的ではなく手段です。力を合わせることで、より大きな「良いこと」を行い、その成果を「未来に残る価値」へと進化させていく。その到達点こそがIMPACTではないでしょうか。つながりが信頼を生み、歓迎の姿勢が参加を生み、行動が変化を生むのです。ロータリーの価値は、そこで生まれる「持続可能なインパクト」にあるのでしょうか。パパローラ会長エレクトの発信は、まさにその一点に集約されていると感じました。変化とインパクトは異なる。変化は始まりでありインパクトは持続しなければならないものであるということを念頭にCOMEBACK TO SHINSHU次世代に向けて魅力ある「ふるさと信州」の環境づくりを新たな発想で考え行動しましょう。

未来へ残る価値、持続可能なインパクトを地域に広げる

- ① 未来に向けロータリアン（ローターアクト）が地域や地域以外に在住する地元出身者、更には次世代を担う子供達や、その親世代の人達への広報活動を含めた奉仕活動を積極的に展開し、よりインパクトのある活動を展開しましょう
- ② クラブがロータリーとローターアクトの理念、目的を理解し、それぞれのルールを守った上で、時代に沿って、個性あるビジョンを持ち、多様性と活気にあふれ、地域社会、グローバル社会に良い変化をもたらす活動を実施しよう
- ③ 今現在地元にいる10代の子供たちは、20年後30代となり、30年後には40代になります。我々ロータリアンの知識、経験を生かし、魅力ある「ふるさと信州」の環境づくりを新たな発想で考えて行動発信することで、より多くの人材が地元で根をおろして、そこから日本や世界の中で活躍し、やがてはロータリー（ローターアクト）に興味を抱き、参加してくれるための持続可能なインパクトを広げることを考え、行動しましょう

■継続事業と持続可能となり得る事業■

- ① 古着でワクチン
- ② 子どもたちの歩行ケア
- ③ 防災・減災
- ④ 長野県との連携協定を活用した事業
- ⑤ ローターアクトクラブやインターアクトクラブとの新たな連携事業や活性化
(新クラブ結成に繋げる)

これらの事業以外でも私達ロータリアンの経験やスキルを活かし地域を巻き込んだ活動を積極的に行うことで持続可能なインパクトを生みCOMEBACK TO SHINSHUへ繋げよう

■会員増強と退会防止■

会員が増えれば、おのずと人とお金（資金力）が増しますので、その先の寄付行為も奨励とともに活発化させ多くの奉仕活動に注入することが可能となります。退会防止に努め会員を維持することもソコに繋がります。

ローターアクト・インターアクトとの交流や長期的目線で新設を奨励します。即効的な視点から女性会員、30代、40代の会員増強に努めましょう。（具体的に可能な数値目標を設定）

そして、新会員の孤立を防ぎあらゆる活動への参加を促しクラブ全体で行動計画の四つの優先事項に照らした活動に巻き込むことを奨励します

■地区寄付目標■

1. ロータリー財団への寄付

年次基金	1人 150ドル (0クラブを無くそう！)
ポリオプラス	1人 30ドル (0クラブを無くそう！)
平和センターへの寄付	1人 200円
恒久基金への寄付	1クラブ 1,000ドル
大口寄付者の獲得	

2. 米山記念奨学会への寄付

1人普通寄付金 3,000円と特別寄付金を合わせて20,000円以上を目指しましょう

2026-27年度 国際ロータリー第2600地区
中信第一グループ ガバナー補佐 竹内 直彦



★米山奨学生クラブ訪問(佐久コスモスロータリークラブ)

会場:佐久グランドホテル

日時:2026年8月3日(月)

◎訪問者

藤森康友カウンセラー
米山奨学生銭楚方さん



★田野陽子会員のお嬢様が重量挙げ競技において

素晴らしい成績を収められました。

今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

信濃毎日新聞(2026年8月4日付)に掲載されました。

